

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定 **実施結果**)

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月27日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1)単位制の利点をいかした年次進行制の教育課程に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を展開する。 (2)基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を図る。 (3)学習意欲を高め、自ら考え、表現する力を育む。	(1)新しい教育課程とその理念に基づき、本校が『育てたい人物像』を育てるための教科指導に取り組む。 (2)徹底して「わかる授業」を追求する授業改善と「学習効果」を実感できる仕組みづくりを推進する。	(1)-1 校内各組織(グループ・年次・教科)の連携と協働により、新しい教育課程に基づいた教育活動を展開する。 (1)-2 授業における指導目標を明確化し、基礎学力の定着、社会人として求められる様々な資質の醸成を図る。 (2)「基礎学力育成シート」「視聴覚教材」「学び合いのある授業」などを効果的に取り入れ、「確かな学力」の育成と「達成感のある授業」を各教科で研究、実践する。	(1)新しい教育課程の理念に基づく教育活動を展開し、目標とする人材育成ができたか。 (職員アンケート、生徒による授業評価、基礎力診断テストの結果、進路状況) (2)各教科での取組の結果、生徒の学習状況が改善されたか。 (生徒による授業評価、生徒の状況観察、各種試験・資格取得の結果、基礎力診断テストの結果)	(1)新しい教育課程の理念に基づいた教育活動の展開の中で、確かな学力の定着を目指し、小集団習熟度別授業の拡大ができた。 (2)昨年度の試行を踏まえた新しい「基礎学力育成シート(湘風力発電)」を実施した。また、「スモールステップ」の実践で、達成感のある授業が展開できた。	(1)新しい教育課程を実施した中での問題点の洗い出しを行い、今後も改善や見直しを行っていく。 「確かな学力」の育成にきわめて有効な、小集団学習や習熟度別学習のさらなる拡充を検討する。 (2)改善結果が急激に現れるものではないので、繰返し、継続的に取組み、研修会等を通して、指導力の向上などを図っていく。	<学校評議員・保護者> ・丁寧でわかりやすい授業が展開されている。 ・小集団学習は継続、拡大して欲しい。 ・生徒と保護者に対して、進路と選択科目についてさらに丁寧な説明がほしい。	(1)新教育課程の展開と小集団習熟度別の授業の拡大が図れた。 新教育課程2年目に向けて、問題点の洗い出しを行う。 (2)「基礎学力育成シート(湘風力発電)」の完全実施、スモールステップによる達成感のある授業が展開できた。 より高い目標達成に向けた方策にも取組む必要がある。	(1)洗い出した問題点の改善に向けた具体的な方法を検討する。 (2)ワンステップアップを目指した取組みについて検討する。
2 生徒指導・支援	(1)生徒の規範意識を育成し、社会や集団の一員であるという自覚を持たせる。 (2)学校生活への積極的な参加を通し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。 (3)教育相談・支援体制の整備に努め、生徒一人ひとりの豊かな学校生活を支援する。	(1)期待される行動やマナーを果たそうとする感性や態度を育むとともに、教育相談等をおして一人ひとりに行き届く支援に努める。 (2)精選された学校行事や様々な活動をおして、集団への帰属意識や他者と協力して成果を上げようと努力する意識を涵養する。	(1)-1 全職員が「授業規律」の徹底と「規範意識や道徳観を育むこと」の重要性を確認するための研修会を開催するなどして、共通理解を図る。 (1)-2 各年次に配置した教育相談コーディネーターの役割を明確化するなどの方策により、生徒一人ひとりに応じた指導や支援を行う。 (2)各種行事の目的や意義を理解させるとともに、部活動や委員会活動などの活発化を図る中で、チームワークを尊重し、責任感を持って、自ら計画的に取り組めるよう指導や支援を行う。	(1)個々の生徒の状況把握、課題を認識した適切な指導、支援が行えたか。 (生徒の状況観察、指導件数の推移、教育相談の状況、いじめ・学校生活アンケート) (2)各種行事がスムーズに運営され、生徒が満足感を得られたか。また、部活動や委員会活動の活発化が図れたか。 (各種行事の状況、行事アンケートの結果、部活動への加入状況と活動状況)	(1)課題、問題の教職員間での共通理解は的確に行えた。また、個々の生徒に応じて、的確で粘り強い指導が行えた。また、各種アンケートの結果を学級担任にフィードバックし、日常の指導等に活かすことができた。 (2)体育祭や文化祭の目的や意義を随時伝えて意欲や連帯感を喚起した。運営面でも生徒が活躍できる場を増やし、事前指導を徹底した。アンケートにより、9割以上の生徒が満足感を得た。部・同好会の加入率はほぼ横ばいであるが、全国大会をはじめ関東大会や県大会出場など実績の上がる活動が増えてきた。	(1)指導の結果、改善が見られる生徒がいる一方で、なかなか指導が及ばない生徒もいるのが現状である。今後も粘り強く指導をしていく。 交通事故件数は減少したとはいえ、今後も年間を通して指導し、意識向上と事故の減少を目指していく。 アンケート結果のフィードバックは、学級担任の生徒理解の一助になり、早期対応が行えた。今後も継続する。 (2)準備期間が制限されるなかで、効率のよい運営を工夫していく。各部・同好会の活動内容を発信する場を増やし、加入率の向上につなげる。	<学校評議員> ・しっかりとした生徒指導は特色なので、妥協なく継続してほしい。 ・交通安全指導は高校だけの問題ではないので、小中学校、大学、地域も含めた大きな枠組みでの取組みが必要なのではないか。	(1)適切な生徒情報の把握と共有により、個に応じた指導・支援が行えた。 交通事故件数の改善は見られなかった。 (2)学校行事で生徒が主体的に動く場が増えた。部活動等での活動実績が上がったが、加入率の変化はなかった。	(1)交通事故件数減少に向けて、継続的な指導とともに、新たな取組みも検討する。 (2)学校行事の効率的運営と生徒の主体的活動のバランスを取りながら、行事の活発化を図る。活動実績を活かし、加入率の向上を図る。

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月27日実施)	総合評価(3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	(1) 生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。 (2) 生徒が自ら将来像を描き、主体的に生涯を生きる姿勢を育てる。	(1) 自分の可能性を信じて目標に向き合う「挑戦力」を育成するとともに、それを支える教職員の進路指導力の向上を図る。 (2) 社会人・職業人としての将来像を具体的に思い描けるキャリア教育を推進する。	(1) 生徒が自己理解を深め、より高い進路目標を実現できるよう、職員向けの研修会を開催するなど、組織的・系統的な進路指導体制を整備する。 (2) キャリア講演会や職業体験などのキャリア学習の機会を担当するグループと各年次が連携しながら、段階的・計画的に実施し、長期的な視野にたった指導、支援を行う。	(1) 生徒の進路指導、支援が適切に行われ、目標実現がなされたか。 (生徒の進路状況、進路先から聞き取りなど) (2) 段階的・計画的な取組で、生徒個々の状況把握、適切な指導、支援が行えたか。 (各種進路行事での取組状況や振り返り結果、生徒の進路状況)	(1) 生徒対象の基礎力診断テストの結果分析会の実施、職員の進路指導力向上のための研修会、2年次生対象に進路向け講習や校外模試を実施し、挑戦力の育成が図れた。 (2) 1年次で職業人インタビュー、2年次では上級学校生徒による講話を取り入れ、より具体的な将来像を描ける機会を設定できた。	(1) 外部試験については「高等学校基礎学力テスト(仮称)」導入の動きを見ながら検討していく。 進路カルテについては学習指導要領改訂に合わせて、検討していく。 進路講習は学習支援G、キャリア支援Gと連携して検討していく。 (2) 今年度の新たな試みは、概ね好評であった。内容を検討しながらさらに体験的な内容が充実できるよう検討していく。	<学校評議員> ・生徒が進路に関して具体的なイメージを持ちやすい工夫されたキャリア支援指導が行われている。 ・1年次からのキャリア教育が大切にされている。	(1) 「挑戦力」育成の目標達成に向けて、様々な取組を実践できた。まだ結果は出ていないが、成果は着実に出てきている。 (2) 早期の進路目標設定に向けた取組は成果を収めている。より高い目標に向けた取組を進める必要がある。	(1) 取組を始めた年次が最終学年となる。しっかりとした結果が残せるよう計画的、継続的に取り組んでいく。 (2) 「行ける進路」に向けた取組みにステップアップを検討する。
4 地域等との協働	(1) 家庭や地域との連携により、パートナーとして愛され、支持を得られる学校づくりを推進する。 (2) 小中学校との連携と協力により、教育課題の解決に向けた取組を推進する。	(1) 生徒が社会の一員として生活することの意義を学ぶ機会として、地域の防災活動や行事に積極的に参加する。 (2) 3校種で教育課題を共有することで、子供たちを連続性の中で育てる仕組みづくりを研究する。	(1) 市内からの通学者が減少する中で、地域社会の一員としての意識を高めるために、地域の行事などに積極的に参加できる環境づくりを行う。 (2) 小中高連携教育に係る様々な取組の中で、課題の共有とその解決に向けた連携や協働を図る。	(1) 生徒が地域の各種行事に参加できたか。 (地域行事への参加状況) (2) 運営会議、協議会、教育連携研修会などで、具体的な議論や取組が行えたか。 (各種会議・研修会での議事録、アンケートの結果)	(1) 地域の行事に参加するとともに、グランドゴルフ大会を実施した。「ひらつかスクール議会」に参加した。 (2) 「小中高連携教育交流会」では新たな取組として、学力に関する課題ではなく防災に関する取組を行った。課題解決への足がかりにはなった。	(1) 今後も継続して地域貢献活動を計画し、地域との連携を図っていく。また、生徒が地域と交流を深められる機会を増やしていく。 (2) 本校が指定を受けたコミュニティスクールとの関連性の中で、小中高連携教育についても、新たな枠組みや取組を検討する。	<学校評議員> ・地区の防災訓練もその方法について検討するので、協力をお願いしたい。 ・公民館活動で高校生が活躍する場を増やしてほしい。 <小中高教育連携教育運営委員> ・防災の課題は職員に高評価だった。	(1) 新たな地域行事に参加することができた。今後も地域との協働を密にする必要がある。 (2) 防災に関する課題は好評であった。連携の課題を検討する必要がある。	(1) 参加する行事を精選しながら、地域との連携を強化する。 (2) コミュニティスクールの組織作りの中で、小中高連携の新たな形を検討する。
5 学校管理 学校運営	(1) 生徒が安心して学校生活を送ることができる、安全な学校づくりに取り組む。 (2) 一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。	(1) ①教職員が意思統一を図る中で、規律とマナーに守られた教育環境と明確に目標をもった教育活動を提供する。 ②生徒と教職員が、ともに自らの生命を守ろうとする防災意識の向上を図る。 (2) ①誠実に職務に向き合うことにより、生徒・保護者・県民から全幅の信頼を得られる学校づくりに取り組む。 ②建学の精神に立ち返り、本校の次の10年を見据えた将来像を構築する。	(1) ①校内研修会の充実などにより、職員の意識向上を図り、本校の教育理念に基づいた教育活動を行う。 ②防災意識の向上のため、D I Gを活用した防災訓練を取り入れる。 (2) ①事故防止会議の内容を充実させ、職員の意識の啓発に努める。 ②10周年記念行事の企画・運営をとおして、これまでの経過を踏まえた本校の将来像を職員で共有する。	(1) ①規律とマナーに守られた教育環境を提供することができたか。 (研修会の実施状況、生徒による授業評価、生徒の状況観察、いじめ・学校生活アンケート) ②D I Gを活用した効果的な防災訓練が実施できたか。 (防災訓練の実施状況) (2) ①職員の心に響く事故防止会議ができたか。 ②本校らしい10周年記念行事の準備ができたか。	(1) ①授業改善研修会の中で授業規律の徹底を全員が再確認した。 ②外部講師の指導のもと、今年度着任した職員と新聞委員の生徒が合同でD I Gを活用した防災訓練を行った。 (2) ①担当職員のヒヤリ・ハット経験などを踏まえて有意義な事故防止会議ができた。 ②開校10周年記念事業実行委員会を立ち上げ、記念行事の実施に向けて準備を整えた。	(1) ①本校の特色のひとつである「安心・安全」な学校の基本である授業規律の徹底は、今後も永続的に継承していく。 ②次年度以降も授業時間確保とのバランスを考慮した上で検討する。 (2) ①今後もより有意義な事故防止会議を行い、事故ゼロに向けて役立てていく。 ②来年度の開校10周年記念事業に向けて万全の準備を整え、本校らしい行事を行う。	<学校評議員> ・D I Gを活用した防災訓練を地域の方やPTAにも拡大してほしい。 ・「挑戦力」の育成をさらに継続してほしい。	(1) 授業規律を徹底することができた。D I Gをより多くの生徒・職員に実施する必要がある。 (2) 事故防止を徹底できた。10周年事業は実施年度となる。万全の準備を整えていく。	(1) D I Gをより多くの生徒などに取り組ませる方策を検討する。 (2) P T A、同窓会との連携を密にして開校10周年記念事業の確実な実施を行う。